※令和３年度以前入学生用

学校番号	２２０１

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２	年次	２～４
使用教科書	高等学校　新倫理　新訂版　（清水書院）						
副教材等	アプローチ倫理資料 PLUS　（東京法令）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

２　学習の到達目標

１：青年期の課題と、人間としての在り方生き方について、主に古今東西の諸思想の学習によって、自分自信や他人の「人生観や世界観ないし価値観」を尊重するための知識を身につける。
２：主体としての自己の確立をめざして、とくに人間の尊厳について倫理的に考察し、思索を深めて説明したり対話したりする表現力を高める。
３：現代社会の倫理的な課題について追求し、他者とよりよい社会を形成するための態度を育てる。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付ける。
評価方法	・レポート課題 ・授業に取り組む姿勢 ・課題への取組状況	・定期考査（論述問題） ・授業での発言・発表 ・課題の成果	・定期考査 ・レポート課題 ・課題への取組状況	・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期（後期）	人生における哲学	・神話から哲学へ ・自然哲学の誕生とソフィスト ・真の知への道 ソクラテス ・理想主義的なあり方　プラトン ・現実主義的なあり方 アリストテレス ・幸福をめぐる問い ヘレニズムの思想	○	○	○	○	a:ユダヤ教、キリスト教、イスラームの一神教における人間の生き方や在り方について、或いは自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして、関心をもって学ぼうとする意欲・態度をもっている。 b:エレミヤ、イエス、パウロ、などの生涯と思想を通して、その意味について考え判断することができる。 c:『旧約聖書』『新約聖書』『クルアーン』など原典を読んだり、それに触れた絵画、彫刻等の芸術に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。 d: 一神教、律法、メシア、アガペー、隣人愛、贖罪、恩寵、教父、カトリック、アッラー、シャリーア、六信五行等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
前期（後期）	キリスト教　愛の宗教	・ユダヤ教 ・イエスの思想 ・世界宗教への展開 ・イスラーム　啓示と戒律の宗教	○	○	○	○	a:ユダヤ教、キリスト教、イスラームの一神教における人間の生き方や在り方について、或いは自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして、関心をもって学ぼうとする意欲・態度をもっている。 b:エレミヤ、イエス、パウロ、などの生涯と思想を通して、その意味について考え判断することができる。 c:『旧約聖書』『新約聖書』『クルアーン』など原典を読んだり、それに触れた絵画、彫刻等の芸術に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。 d:一神教、律法、メシア、アガペー、隣人愛、贖罪、恩寵、教父、カトリック、アッラー、シャリーア、六信五行等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
前期（後期）	仏教　智慧と慈悲の宗教	・バラモン教 ・仏陀の思想 ・仏教のその後の展開	○	○	○	○	a:仏教における人間の生き方や在り方について、自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして関心をもって学ぼうとする意欲・態度をもっている。 b:基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、仏陀や竜樹、無著、世親の生涯と思想を通して、その意味について考え正しい判断をもつことができる。 c:仏典や種々の解説書を読んだり、芸術に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。 d:カルマ(業）、輪廻、解脱、四苦、四諦、上座部、大乗仏教、一切衆生悉有仏性等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
	人生の知恵	・孔子と儒家の思想 ・儒教の展開 ・道家の思想	○	○	○	○	a:中国における人間の生き方や在り方について、自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして関心をもって学ぼうとする。 b:基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、代表的な思想家の生涯と思想を通して、その意味について考え正しい判断をもつことができる。 c:原典やその解説書を読んだり、古代中国の詩や小説に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。 d:諸子百家、徳治主義、性善説、性悪説、道、無為自然、万物斉同等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
前期（後期）	現代の倫理的課題	・近代とは何か ・合理化と近代科学 ・合理的な考え方と社会の進歩 ・近代社会がもたらしたもの ・近代社会の限界	○	○	○	○	a:現代の倫理的課題について、政治や経済、社会、文化的状況を踏まえて関心をもち、考えようとしている。 b:科学･技術、合理化や進化、等々の状況を踏まえて、現代の倫理的課題について考察し、客観的な判断をもつことができる。 c:現代の倫理的課題について、多様な観点から、種々の情報資料を収集調査し、問題点や課題の所在を明確化し、まとめることができる。 d:現代の倫理的課題について、近代化・合理化・進化や進歩とその問題点について知識をもち、現代の諸事象を解釈することができる。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
	人間の尊厳	・自己肯定の精神 ・宗教観の転換 ・人間の偉大と限界	○	○	○	○	a:ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、それらが現代に生きる私たちの芸術に興味や関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。 b:ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、近代の人間観が現在にも有効であることを理解し、現代的な課題について客観的で公正な判断をくだすことができる。 c:ダ‐ヴィンチやミケランジェロの作品などにふれ、その特徴を文章にまとめることができる。 d:ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、基本的な知識理解をもち、それを踏まえて自己自身の考え方を表現し文章にまとめることができる	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

前期（後期）	自然や科学技術と人間とのかかわり	・自然への目と科学的なものの見方 ・事実と経験の尊重 ・理性の光	○	○	○	○	a:近代科学の方法の確立とその発展及び科学の原理的考察に関してデカルトやベーコンの思想に関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。 b:ガリレイの思想と教会との関係やまたデカルト、ベーコンの思想を通して科学方法論や人間観・世界観の特徴を客観的に考えその意味について適切に判断することができる。 c:近代科学の方法の確立、デカルトやベーコンの著作や同時代の諸資料を参考にして、その成果や特徴および問題点などをまとめ、文章に書くことができる。 d: 天動説、地動説、科学革命、イドラ、経験論、方法的懐疑等々について正確な知識と理解をもち、文章を書くことができる。帰納法、演繹法の説明ができる。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
前期（後期）	自己実現と幸福	・人格の尊重と自由 ・自己実現と自由 ・幸福と功利 ・創造的知性と幸福	○	○	○	○	a:ヨーロッパの 19～20 世紀の哲学、アメリカ 20 世紀の哲学について、私たちの生活する世界と時代に直接的な繋がりがある思想として関心をもち、探求する意欲と態度をもっている。 b:カントの理性の哲学、ヘーゲルの歴史哲学、功利主義、アメリカのプラグマティズムなどの現在の私たちにも深く関わる思考であることを認識し、その現代的な意味について適切に判断することができる。 c:カント、ヘーゲル、ベンサムやミル、デューイなどの著作や同時代資料について文章に書くことができる d: カント、ヘーゲル、ベンサムやミル、プラグマティズムの思想とその基本的な諸概念について正しく理解し、それについて文章を書くことができる。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。